

6. 市運営コミュニティバスの運営形態について

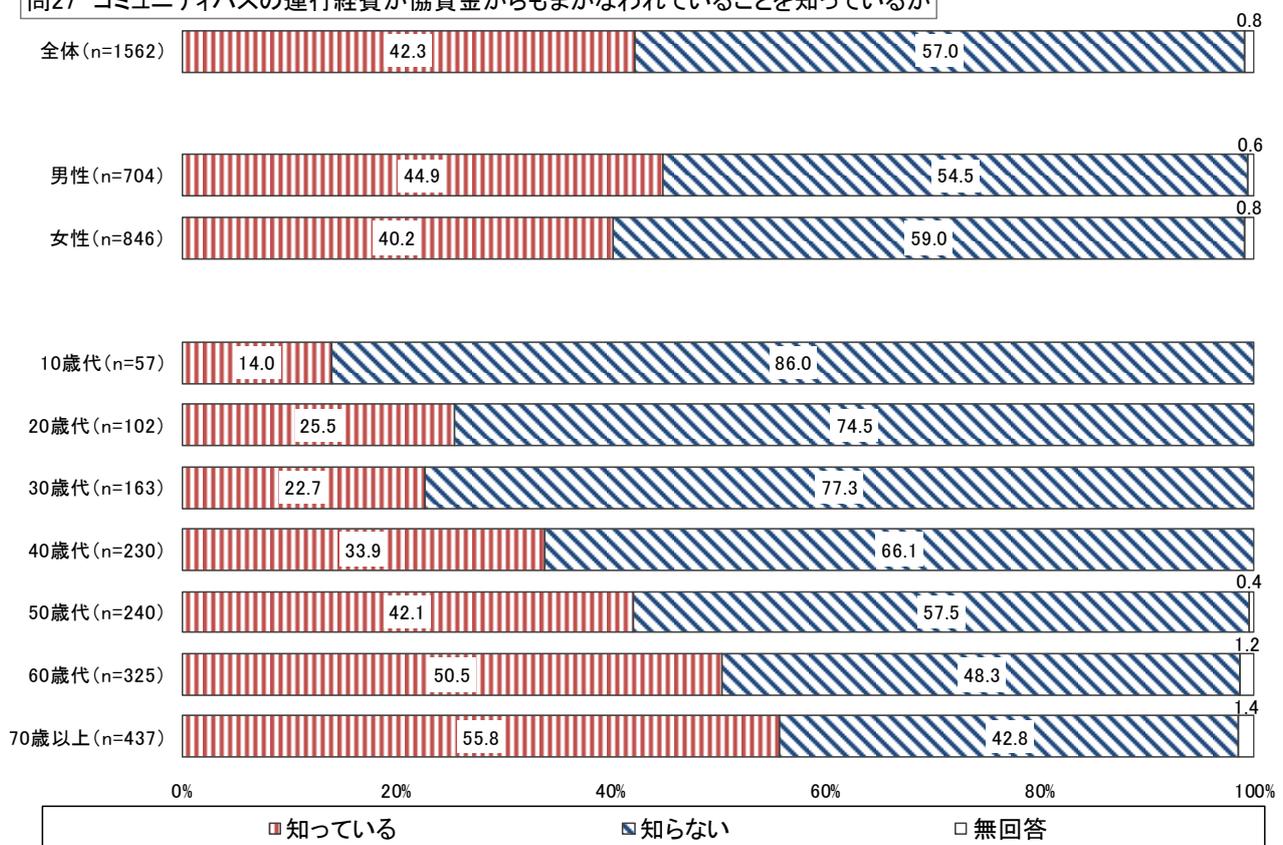
問 27 松阪市運営バスの運行経費は、運賃と公費に加え、その他の財源として、企業や沿線地域等の住民の協賛金でまかなわれているのを知っていますか。(〇は1つだけ)

「知らない」が57.0%、「知っている」が42.3%となっている。

性別にみると、男性の方が女性よりも「知っている」がやや高くなっているが、性別による大きな差はみられない。

年代別にみると、30歳代以降、「知っている」が徐々に増加していき、70歳以上では55.8%となっている。

問27 コミュニティバスの運行経費が協賛金からもまかなわれていることを知っているか



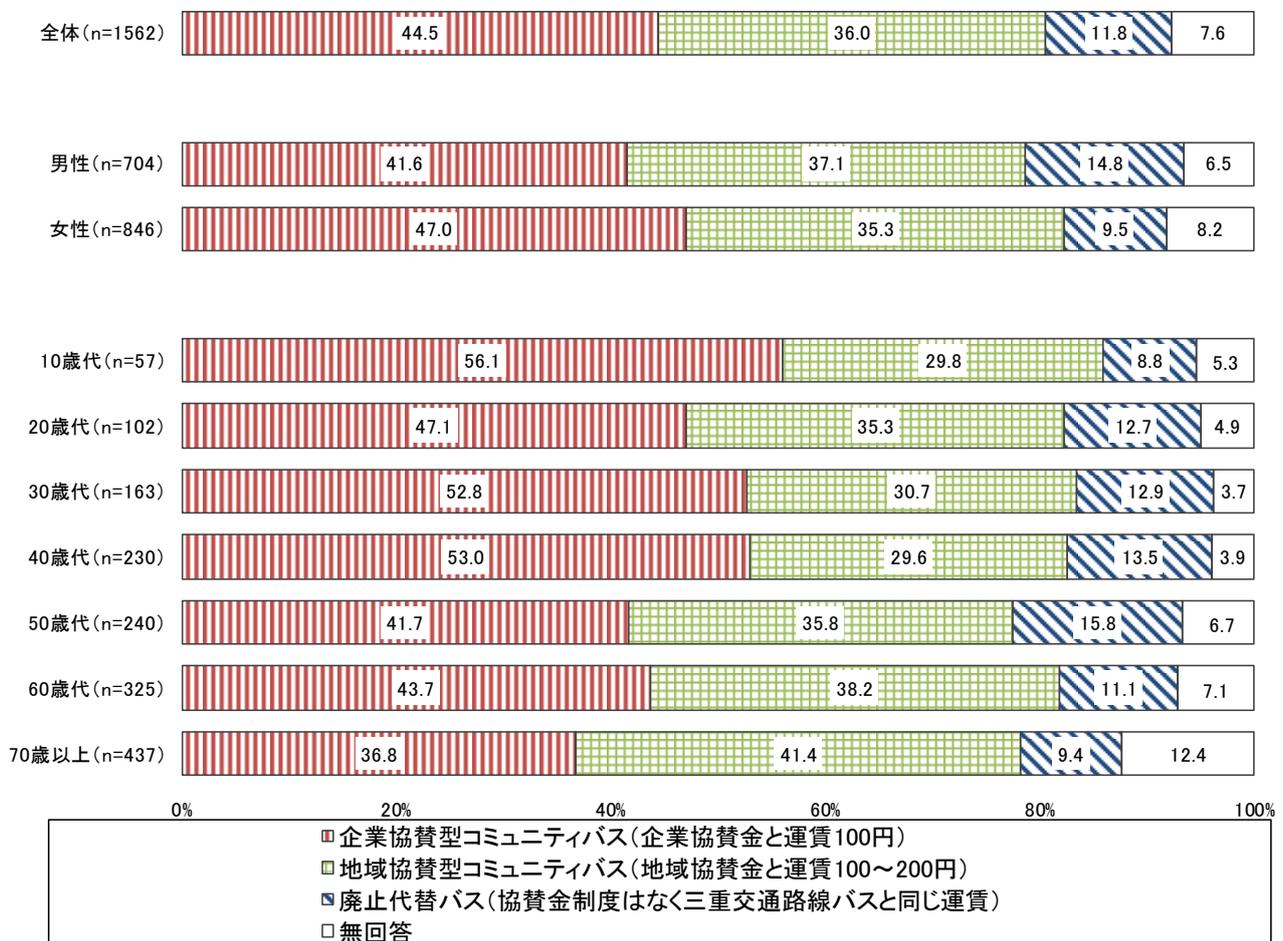
問28 松阪市運営バスは、上記のように、協賛金をいただいているコミュニティバスは100円ないし200円の運賃で、廃止代替バスは三重交通の運賃形態と同様のもので運営しています。どの運営形態が望ましいと思いますか。(〇は1つだけ)

「企業協賛型コミュニティバス(企業協賛金と運賃100円)」が44.5%と最も高く、ついで「地域協賛型コミュニティバス(地域協賛金と運賃100~200円)」が36.0%、「廃止代替バス(協賛金制度はなく三重交通路線バスと同じ運賃)」が11.8%となっている。

性別にみると、男性・女性ともに「企業協賛型コミュニティバス」が最も高くなっている。

年代別にみると、60歳代までは「企業協賛型コミュニティバス」が最も高くなっている。ただし、50歳代以降では「地域協賛型コミュニティバス」も徐々に増加していき、70歳以上では4割を超えている。

問28 コミュニティバスの運営形態で望ましいもの



コミュニティバス

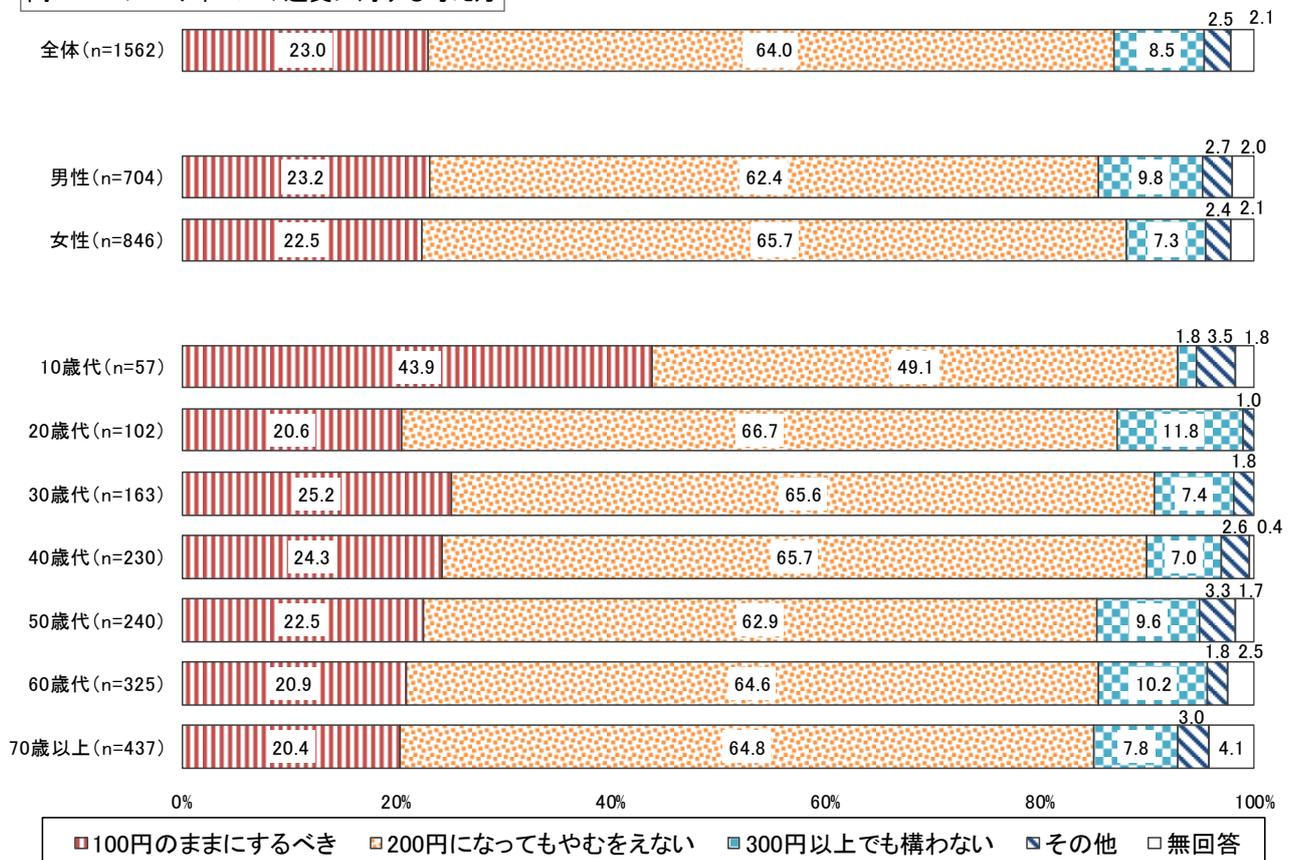
問 29 昨年度の「市民意識調査（3000人アンケート）」で、バスを利用する運賃として最も回答が多かった運賃の金額は、「200円まで」でした。運賃100円のコミュニティバスについて、あなたの運賃に対する考え方に最も近いのは、次のうちどれですか。（○は1つだけ）

「200円になってもやむをえない」が64.0%と最も高く、ついで「100円のままにするべき」が23.0%、「300円以上でも構わない」が8.5%となっている。

性別にみると、男性・女性ともに「200円になってもやむをえない」が最も高くなっており、性別による大きな差はみられない。

年代別にみると、いずれの年代においても「200円になってもやむをえない」が最も高くなっており、10歳代を除くすべての年代で6割以上となっている。

問29 コミュニティバスの運賃に対する考え方



問30 松阪市のコミュニティ交通を、きめ細かいニーズに対応できるものとしていくには、
どうしていきべきだと思いますか。(〇は1つだけ)

「地域ごとに独自の取組を検討していく」が43.2%と最も高く、ついで「デマンド型交通の導入を検討する」が22.3%、「タクシーの利用を推進する」が17.8%となっている。

性別にみると、男性・女性ともに「地域ごとに独自の取組を検討していく」が最も高くなっており、いずれも4割を超えているが、性別による大きな差はみられない。

年代別にみると、いずれの年代においても「地域ごとに独自の取組を検討していく」が最も高くなっている。10歳代では「今のままで良い」も28.1%と高くなっている。20歳代から50歳代では「デマンド型交通の導入を検討する」も3割程度で高くなっている。

問30 コミュニティ交通を今後どうしていきべきだと思うか

